
学 校 名

京都市立六条院小学校

問い合わせ先：電話番号

〒600-8198

京都市下京区河原町通上桮穀馬場上ル若松町420

TEL:075-351-3394

FAX:075-351-4907

I 学校の概要

1 児童生徒数 学級数 教職員数

(平成22年3月現在)

児童数 120名

学級数 7学級

教職員数 14名

2 地域の概況

本校は、京都駅に近く、東本願寺の別邸である涉成園のすぐ北に位置する。児童数120名の小規模の学校で、平成22年4月には、崇仁小学校・植柳小学校の3校が統合し、下京涉成小学校として開校する。

校区には、高瀬川が流れ、その東に鴨川が流れている。地域の夏祭りでは、高瀬川保勝会など地域主催の高瀬川灯籠流しが行われ、全校児童が灯籠を作成し、灯籠流しに参加している。

高瀬川は、下流をたどっていくと、崇仁小学校の中を通る。崇仁小学校には、ビオトープがあり、毎年夏休みには、低学年の児童が3校交流学习で、ビオトープの生き物を観察している。

この高瀬川及び鴨川は、琵琶湖疏水により琵琶湖とつながっており、京都市では琵琶湖の水を飲料水としている。そして、この鴨川は、桂川と合流し淀川となって大阪湾に流れていく淀川水系である。

4年生の社会科で琵琶湖疏水について学習する。それと関連させて、総合的な学習の時間で「高瀬川プロジェクト」に取り組む。そして、5年生では「鴨川プロジェクト」、さらに6年生では「琵琶湖プロジェクト」に取り組んでいく。「水」を視点にした「命の水プロジェクト」に取り組んでいくのに、ふさわしい地域環境である。

3 環境教育の全体計画等

(1) 第1学年における環境教育

①生活科で自然観察をする。

②雲の観測をする。

③BKぞうきんを活用する。

(2) 第2学年における環境教育

①生活科で自然観察をする。

②BKぞうきんを活用する。

(3) 第3学年による環境教育

①ビオトープの生き物観察をする。

②草花の自然観察をする。

(4) 第4学年による環境教育

①自然観察をする。

②高瀬川の調査をする。

(5) 第5学年による環境教育

①川や森林と生活との結び付きに関する学習をする。

(6) 第6学年による環境教育

①石油などに関するエネルギー学習をする。

II 研究主題

「身近な環境に対する意識を高め、

思いやりのある豊かな心を磨く」

～自然と人間の共生を考える

子どもたちの育成を目指して～

III 研究の概要

1 研究のねらい

(1) 自分たちの身近に流れる高瀬川について、GLOBE事業を通して観測することにより、広い視野から科学的なものの見方や考え方を養い、地球規模の環境への関心を高めていく。

(2) 地域の方が環境保全に取り組む姿を知り、環境に対する意識を高め、主体的な環境保全への取組を進めていく。

(3) 活動を通して水と人々の暮らしとのかかわり等にも目を向け、自然と人間の共生を考える子どもたちを育成していく。

(4) 思いやりのある豊かな心を育成していく。

2 校内の研究推進体制

(1) 研究推進体制

(別紙様式2)

①校内においては、学校長を中心として、環境教育研究推進部長及び教務主任、環境教育部によるプロジェクトチームを研究組織に位置付け、組織的な研究を推進する。

②総合地球環境学研究所等専門機関から講師を招き、高瀬川の環境に関する現状や課題等について授業を受講する。

(2) 観測体制

①第4学年の児童による水質検査・生物調査を継続して行う。

②「高瀬川保勝会」との連携を密にしながら、観測を進める。

(3) 観測機器などの設置状況

①水質検査キット

②温度計

③透視度計

④リトマス試験紙

⑤ペットボトル

⑥ものさし

⑦デジタルカメラ

⑧記録用紙



【観測機器①～③】

3 研究内容

(1) グローブの教育課程への位置付け

①自分たちの身近な地域での活動を通して、地球環境の関心を高め、自然やその恵みへの感謝の気持ちを持てるようにしていく。

②環境を守る大切さに気付き、多くの人と協力し合って、自主的な環境保全活動に取り組めるようにしていく。

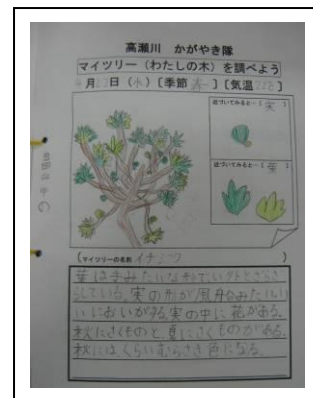
(2) グローブを活用した教育実践

第4学年の総合的な学習の時間で「地球にやさしく～高瀬川プロジェクト～」を以下のように実践してきた。

①「高瀬川を知ろう」

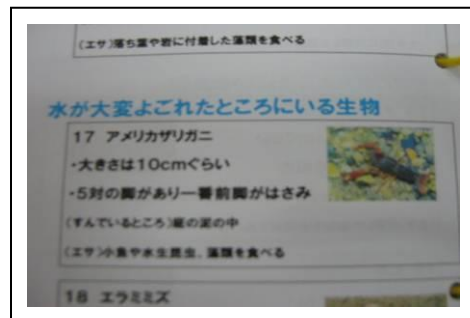
ア. 高瀬川の植物と生き物

まず、「高瀬川を知ろう」では、高瀬川の植物と生物を調べた。自然観察を継続的に行うことで、高瀬川には、ホタルだけでなく、多くの水生生物や植物が存在することを知ることができた。

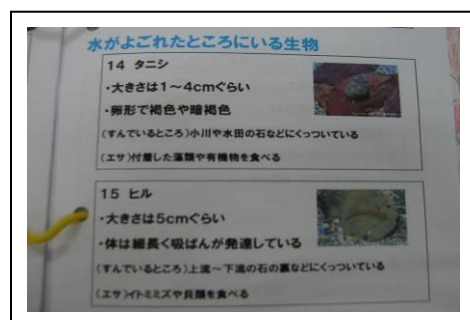


【自然観察ノート】

高瀬川でよく見かける生物は、アメリカザリガニ、タニシ、ヒルなどである。



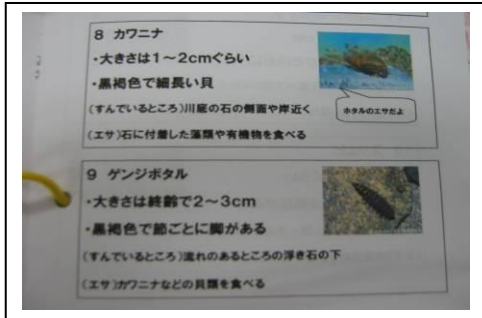
【アメリカザリガニの特徴】



【タニシ、ヒルの特徴】

(別紙様式2)

しかし、アメリカザリガニやタニシ、ヒルなどは、水が汚れたところにいる生物である。また、高瀬川に住む生物が年々減少していることもわかった。これらの原因は、人間が捨てるゴミで高瀬川が汚されているという現実も目の当たりにした。地域の方々が「高瀬川クリーン作戦」に取り組まれていることから、児童と教職員、保護者などが協力し合って、ゴミを取り除く活動を行った。その結果、ここ数年では、再びホタルが飛ぶようになってきた。



【カワニナ・ゲンジホタルの特徴】

これらのことから、地域を流れる高瀬川に生き物が増えるように、川を汚さないようにしようという気持ちが強まった。

イ. 高瀬川の歴史調べ

高瀬川の歴史調べでは、社会科とも関連させて学習した。高瀬川は、1611年(江戸時代)に鴨川の西に約5ヶ月間かけて作られた人工の川であること、高瀬川を作った人は、角倉了以であること、高瀬川ができたことによって、舟で荷物を運ぶことができ、きょうとの人々の暮らしが豊かになったことなど歴史的事実を知った。

また、調べ学習を通して、高瀬川の長さは、約10 kmで二条から伏見までつながっていることや二条の取水口から取り入れた鴨川の水が高瀬川に流れていること、取水口で水量を調節したり、水を止めたりしていることなどもわかった。

高瀬川の歴史を知ることによって、自分たちとの生活とも深く関わっていることに気付き、高瀬川を大切にしようという思いを持つと共に自然の恵みに感謝の気持ちを持つことができた。

②「高瀬川と触れ合おう」

ア. 灯籠流し

「高瀬川と触れ合おう」では、灯籠流しに挑戦した。灯籠は、全校児童が夏休み前に作成し、夏休みの夜に地域の方々と保護者、教職員が協力し合って、児童による灯籠流しを行った。

自分の作った灯籠が、明かりを灯しながら美しく流れていく様子を見て、歓声を上げて感動していた。



【灯籠作品の鑑賞会】



【灯籠流し】

イ. 友禅流し

友禅流しは、4年生で取り組んだ。これは、統合のことも考え、3校合同で行った。

友禅流しを行うまでに、友禅染の下絵を描き、アクリル絵の具で布を染め、布を乾燥させるという過程があった。布を染める時には、地域の友禅染の仕事をしている方に来ていただき、大切なポイントを教えていただいた。

ポイントの1つは、木枠に布をしっかりと張ることである。その際、布が外れないように押しピンで固定する。



【友禅染の説明を聞いている様子】

ポイントの2つ目は、アクリル絵の具に混ぜる水の量を加減することである。あまり多く水を入れすぎると絵の具が滲むので、上手く仕上がらないということを教わった。



【友禅染をしている様子】

実際に、高瀬川で友禅流しを行う時、晴れの日が続いたために高瀬川に水がなくて、予定していた活動ができなかった。そのため、日を延期して再度挑戦した。児童は、高瀬川に水が流れていることを喜びながら川に入った。そして、鉄の固定台に布をくくりつけて、友禅流しを行った。それぞれが作った布の絵柄が、川の中でなびいている様子を、うっとりとしていた。また、通りかかった観光客の方からも感嘆の声が聞こえてきた。



【友禅流しの様子】

灯籠流しや友禅流しは、高瀬川の水の流れや美しさがあるからこそ成り立つものであるということがわかった。これらの活動によって、高瀬川を守っていこうという思いが一層強くなった。

③「高瀬川を守ろう」

ア. 高瀬川クリーン大作戦

「高瀬川を守ろう」では、地域の方々と共に高瀬川クリーン大作戦という清掃活動を行った。

実際に清掃活動に参加すると、缶やビニル袋などのごみが多いことがわかった。私たち人間が捨てるごみが原因で高瀬川が汚れていくのはとても悲しいことである。4年生が中心となり、全校児童にごみを捨てないようにしようと呼びかけることができた。また、ごみだけでなく、枯れ葉等も取り除き、高瀬川の景観が保たれていることもわかった。

高瀬川が美しく保たれているのは当たり前のことではなく、地域の方々の地道な努力があつてこそのことだと実感し、これからは、自分たちも積極的に高瀬川クリーン大作戦に参加しようという感想が多く見られた。



【地域の高瀬川クリーン大作戦の様子】

イ. カワニナ取りと放流

高瀬川クリーン大作戦を通して、美しくなった高瀬川には、きっと多くのホタルを見ることができるだろうという期待を胸に、カワニナについて調べたり、カワニナ取りへ出かけたりした。

最初に本やインターネットを活用して、カワニナが貝であることやホタルの餌となっていること等を調べた。調べたことを基に、一人一人が「カワニナ新聞」にまとめ、交流した。



【カワニナ新聞】

(別紙様式2)

そして、カワニナ取りへ行く前に、ペットボトルでカワニナを入れる容器を作った。



【容器作りの様子】

カワニナ取りは、高瀬川に沿って北へ歩き、四条大橋の北側の鴨川のすぐ横を流れるみそぎ川で行った。高瀬川保勝会の方々に、ホテルの幼虫は自分の体に合った大きさのカワニナを食べるというお話を聞き、色々な大きさのカワニナを取ることに挑戦していた。



【カワニナ取りの様子】

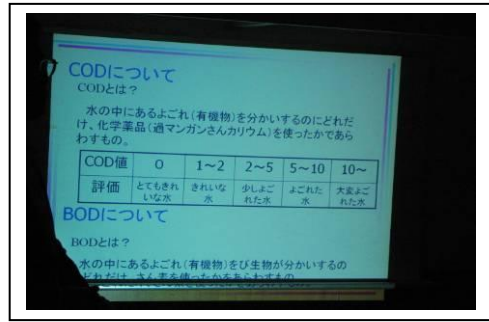
カワニナ取りをした日は、高瀬川に水が流れていなかったため、後日高瀬川保勝会の人と共に、カワニナを高瀬川に放流した。



【カワニナ放流の様子】

ウ. 高瀬川の水質検査

高瀬川の水質検査を行うために、京都市環境衛生課の方に来ていただき、水質検査の方法や記録の方法等を教えていただいた。



【水質検査の説明の様子】



【水質検査の練習の様子】

高瀬川で水質検査をした時、目で見える美しさではなく、様々な数値を基にした水質を確かめることができた。今までやったことがなかった活動が、改めて高瀬川を見つめる機会となり、興味を持って水質検査を継続することができた。



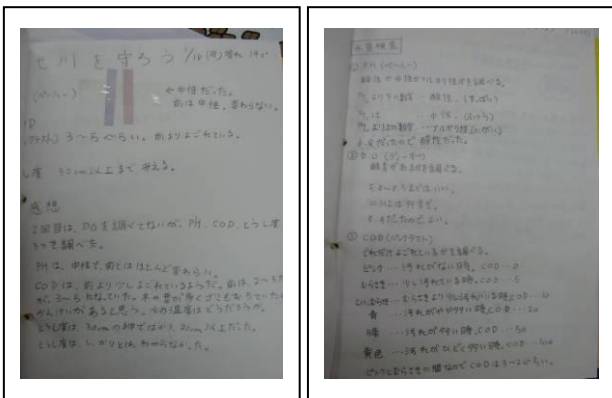
【水温の調査の様子】



【リトマス試験紙による反応の見方】



【透視度計を覗いている様子】



【水質検査をした時のメモ】

について発信したりした。一つ一つの取組からわかったことや感じたこと、多くの人々に広めていきたいこと等を伝えていくことが、これからの高瀬川を守っていくための一つの手段になるという思いが高まった。



【高瀬川ポスター】



【高瀬川新聞】

IV 研究の成果と第2年次に向けての課題

第4学年で取り組んだ「地球にやさしく～高瀬川プロジェクト～」では、自分たちの身近に高瀬川という宝物があることを再確認することができた。

今回、「地球にやさしく～高瀬川プロジェクト～」を通して、自分たちの身近に流れる高瀬川を深く見つめ、様々な角度から高瀬川と向き合うことができた。

高瀬川の生物や植物、水の流れを守ることの大切さ、美しく保ち続けるための努力の大切さなど高瀬川を守っていくために必要なことをたくさん学んできた。

また、地域の高瀬川保勝会の方々や京都市環境衛生課等の機関の方々とも連携を取りながら環境教育を進めていくことができた。

自然の恵みに感謝の気持ちを持ち、多くの人々と協力し合っ て高瀬川を守っていることにも気付くことができた。そして、どんなに小さなことでもいいから、自分たちにできることを考え、実践していく態度が身に付いてきたように思う。

平成22年4月からは、3校が統合して新しい小学校が開校となる。本年度実践してきた取組を基に、さらに充実したものにしていけるよう、考えてきたい。

水質検査を行うことによって、高瀬川の水質は良い方であるということを確認することができた。しかし、ごみ問題等で水質が悪くなる可能性があるのではないかと不安が残っているのも現状である。

また、水量が大変少なくなることがあることも問題の1つである。水量の変化についても、継続して調べていく必要がある。

水質検査を行うことだけを大切にのではなく、高瀬川の水の恵みや美しさを守り続けていくために、自分たちにできることを主体的に継続して実践していくことが最も大切なことである。

④「高瀬川を伝えよう」

「高瀬川を伝えよう」では、これまでの取組を通して、パソコンでデータを送信したり、ポスターや新聞等で高瀬川のこと

V 研究第2年次の活動計画

(1) 第4学年 「高瀬川プロジェクト」

- ①高瀬川を探検する。
- ②高瀬川について関心をもったことをもとに、グループを作り、調べる計画を立てる。
(高瀬川の歴史、川の生き物、川の植物、川と人々の暮らし、川の汚れ、川のゆくえなど)
- ③グループごとに調べてまとめる。
(本、インターネット、京都府環境衛生課等への聞き取り調査など)
- ④高瀬川(地域の水)を守るために、自分にできることを考え、「高瀬川プロジェクト」の発表会をする。

(2) 第5学年 「鴨川プロジェクト」

- ①鴨川について知っていることを交流し合う。
- ②鴨川を探検する。
- ③グループごとに鴨川について調べる計画を立てる。
(鴨川の歴史、川の生き物、川の植物、川と人々の暮らし、川の汚れ、川の上流・中流・下流、川のゆくえなど)
- ④調べたことをグループで工夫してまとめる。
- ⑤調べて思ったことや考えたことを個々にまとめる。
- ⑥「鴨川プロジェクト」の報告会を開き、鴨川(京都の水、日本の水)を守り続けるために、自分にできることを考え、実践していく。

(3) 第6学年 「琵琶湖プロジェクト」

- ①琵琶湖について知っていることを交流し合う。
- ②個々で琵琶湖について調べる課題を決め、課題 解決のための調べ学習をする。
(琵琶湖の歴史、琵琶湖の生き物、琵琶湖の植物、琵琶湖と人々の暮らし、琵琶湖の汚れ(水質検査)、琵琶湖疏水、琵琶湖の保全活動、条約、マザーレイク21計画、琵琶湖が果たす役割、世界水フォーラムなど)
- ③調べて分かったことをわかりやすく発信する準備をし、報告会を開く。
- ④琵琶湖へ行き、地元の人々のお話を聞いたり、いっしょに保全活動をしたりする。
- ⑤「琵琶湖プロジェクト」を通して学んだことを振り返り、琵琶湖の大切さや偉大さについて思ったことや感じたこと、考えたことをまとめて交流し合い、世界の水を見つめた考えを深める。

以上のように、第4学年から第6学年まで、系統立てて計画的な取組を進めていくことで、環境に対する意識を高め、より主体的な環境保全活動へつながっていくと考える。

また、第1学年から環境問題について考えることができるように計画を作成している。

自分たちの生活になくはならない水に目を向け、様々な活動を通して、自然と人間との共生について考え、地球規模での環境への関心を高めていきたい。

来年度の環境教育「ココロ・エコロ学習」計画案

総合環境教育「ココロ・エコロ学習」
相互に共存し得る人権尊重を基盤とした平和で豊かな持続可能な社会・地球環境の実現に働きかける力の育成

分野 学ぶ内容 身に付ける力	人権尊重を基盤とした 人間関係形成力	人間関係形成力	自然環境	衣食住環境	社会環境	地球環境	
	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること	自ら進んで他者とかかわり、関係をつつたり、維持したり、発展させたりしながら、肯定的な人間関係で豊かな交流をすすめていく力	■京のくらしと水 ・琵琶湖、鴨川、堀川、高瀬川、ピオトープ	■京のくらしと知恵 ・町家、町衆の四季、京野菜、おぼんざい、生活エコ	■京のくらしとまち ・京都の景観、まちづくり、エコロジー取組	■下京涉成発COP2011 ・地球温暖化対策、エネルギー対策、世界を知る	
1年	能力③ 自分の 自要求 他要求 を一方 的に主 張する のを解 決する 方法を 見いだ すため に手法 により 異なる 人との 能力間 を関係 をため に整す 接する	共① 他の に人 理解 する に立 つて その 人に 必要 なこ とや その 人の 考え や気 持 ちな どが わか るよ うな 想 像力 。	自然を見つけよう・楽しもう 生き物との出会い ピオトープ 四季による移り変わりを感じる	食育 農家で働く人々 京野菜を育てる 豆腐や味噌作り	やさしい町づくり 設備調べ、探検、京都駅 ユニバーサルデザイン 京都の魅力 京人形・京念珠・京扇子	地球の誕生 命の始まり 命のつながり	
2年	能力③ 自分の 自要求 他要求 を一方 的に主 張する のを解 決する 方法を 見いだ すため に手法 により 異なる 人との 能力間 を関係 をため に整す 接する	共① 他の に人 理解 する に立 つて その 人に 必要 なこ とや その 人の 考え や気 持 ちな どが わか るよ うな 想 像力 。	生き物ランド 飼育の大切さ 水辺の生き物 野鳥の会	食文化体験 日本食の秘密 和菓子作り	視覚障害、聴覚障害、肢体 不自由、お年寄り、赤ちゃん などすべての人を大切にす る →ふれあう場や機会を作る	食と命 食物連鎖 残飯の行方 MOTTAINAIは世界の言葉 (ワンガリ・マータイ氏)	
3年	能力③ 自分の 自要求 他要求 を一方 的に主 張する のを解 決する 方法を 見いだ すため に手法 により 異なる 人との 能力間 を関係 をため に整す 接する	共① 他の に人 理解 する に立 つて その 人に 必要 なこ とや その 人の 考え や気 持 ちな どが わか るよ うな 想 像力 。	グループ活動、学級・学年活 動を通して、グループの 意見をまとめたり、役割分担 をして物事を進めたりして目 的に沿った活動するための 人間関係を築く力=共感、 意見、司会、協力、協調、調 整、感謝、依頼、断りなど	川をきれいにしよう① 高瀬川プロジェクト 高瀬川の歴史 クリーン大作戦 川を守る人々	京野菜料理 (育てた野菜を使って) おいしーだしのとり方	車椅子体験 デイスービス交流	医療 救急隊の活動
4年	能力③ 自分の 自要求 他要求 を一方 的に主 張する のを解 決する 方法を 見いだ すため に手法 により 異なる 人との 能力間 を関係 をため に整す 接する	共① 他の に人 理解 する に立 つて その 人に 必要 なこ とや その 人の 考え や気 持 ちな どが わか るよ うな 想 像力 。	川をきれいにしよう② 鴨川プロジェクト 水質を調べよう 川の上流・下流 川を守るために交流しよう	京町屋に伝わる夏の暮ら し 涼しい着方 暖かい着方 買い物の工夫	茶道体験(鴨川の水との関 係) 高瀬川クリーン大作戦 卓球/バレー交流	貧困に苦しむ国・人々 (飢餓・地雷・少年兵や少女 兵・ストリートチルドレン・働 きづきなど)→募金活動など	
5年	能力③ 自分の 自要求 他要求 を一方 的に主 張する のを解 決する 方法を 見いだ すため に手法 により 異なる 人との 能力間 を関係 をため に整す 接する	共① 他の に人 理解 する に立 つて その 人に 必要 なこ とや その 人の 考え や気 持 ちな どが わか るよ うな 想 像力 。	琵琶湖プロジェクト 琵琶湖が果たす役割 琵琶湖疎水 琵琶湖の保全活動に触れよ う	門履き・水うち 物の使い方 クリーン大作戦 リサイクル活動(3R)	ごみ拾い 町の清掃 →きれいなところにごみを捨 てる心は生まれない	水没する島 絶滅する動物 戦争	
6年	能力③ 自分の 自要求 他要求 を一方 的に主 張する のを解 決する 方法を 見いだ すため に手法 により 異なる 人との 能力間 を関係 をため に整す 接する	共① 他の に人 理解 する に立 つて その 人に 必要 なこ とや その 人の 考え や気 持 ちな どが わか るよ うな 想 像力 。	自分にできること (自然環境を守るために)	自分にできること (衣食住の生活を豊かにす るために)	リサイクル活動(3R) 自分にできること (京のくらしと町をよりよ くするために)	自分にできること (地球環境を守るために)	